



TITLE:

# 日本一のクラゲ天国田辺湾(26) ギンカクラゲ

AUTHOR(S):

久保田, 信

---

CITATION:

久保田, 信. 日本一のクラゲ天国田辺湾(26) ギンカクラゲ. 紀伊民報 2011

ISSUE DATE:

2011-07-20

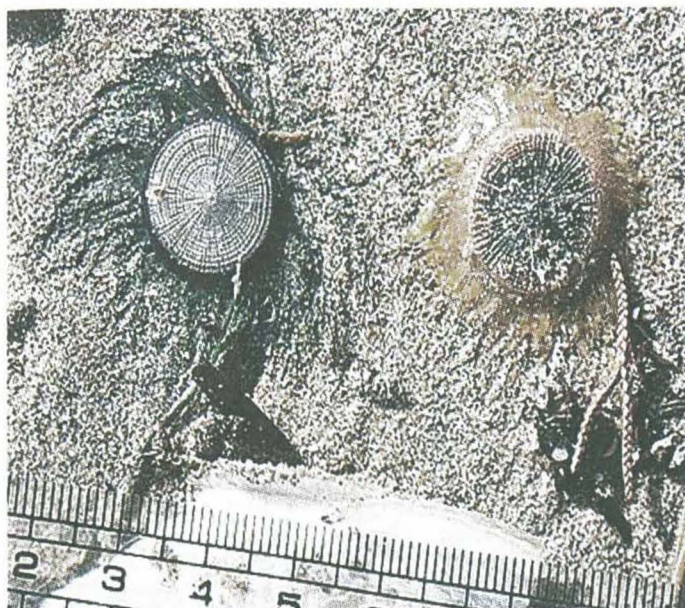
URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180159>

RIGHT:

© 紀伊民報社

# ギンカクラゲ



△  
色違いのギ  
ンカクラゲ

暖海の外洋性種で、南風の連続した吹送により、田辺湾付近にしばしば漂着する。たとえば、京都大学瀬戸臨海実験所の北浜

帆走性のギンカクラゲはカツオノエボシと同じく、普段は沖合を

久保田 信

26



漂流しながら暮らしている。名前の由来はウキの部分が円形で銀貨に似ているからだ。しかし、このウキは、海面より突出する部分がまったくなく平べったい。

軟体部は青く、ウキの下面に多数の栄養個虫や生殖個虫や口のない摂食防御の個虫が林立している。画像のように、まれに色違いの「ギンカクラゲ」と呼びたい個体も漂着する。ただ、刺されたら腫れ上がる人もいるので、うかつに触らないでおう。

における筆者の2000年3月から04年2月まで4年間の漂着物調査では、漂着のほとんどは5月から11月にかけてだった。漂着例は少なく、通常は少数個体だった。しかし、2003年10月には、盤の直径が50ミを超える大型個体も含めて、千個体もの多数が漂着した記録がある。

その後の継続調査では、異例の冬季漂着があった。06年12月22日と27日に1個体ずつ見られ、盤の直径は20ミと28ミだった。このようにまれな冬季の漂着は、紀伊半島への黒潮の接近とそれに関連したギンカクラゲの紀伊水道への運搬、その後の風向によるものと推察される。ただ、厳冬の1〜3月には田辺湾やその周辺海域に漂着した記録はまだない。

本種の生活史も、飼育が難しくまだよく分かっていない。生殖個虫からは多数の小さなクラゲが遊離し、このクラゲが成熟して有性生殖をして次世代をつくる。

(京都大学准教授)